

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	発見！社会の入り口体験講座		
法人名	社団法人大阪府専修学校各種学校連合会		
学校名			
代表者	会長 福田 益 和	担当者 連絡先	西脇 康則 TEL 06-6352-0048

1. 事業の概要

- (1) 近年社会問題となっているニートの学び直しの機会の充実のため、専修学校の持つ職業教育機能を活用して、それぞれの特性等に応じた学習機会の提供を行い、ニートの職業的自立の支援など、それぞれの職業能力の向上を図るとともに、再チャレンジの機会の拡大を推進する。
- (2) 大阪府域のニートサポート事業を展開している、大阪府若者サポートステーション(2人)、南大阪若者サポートステーション(1人)、北大阪若者サポートステーション(1人)の4人のカウンセラーに再チャレンジ支援推進自立支援アドバイザーとして委嘱し、ニートが希望する職業に就くための進学相談や専修学校において学習する上での学習相談等の適切なアドバイス及び専修学校が実施する体験講座への参加誘導を実施する。
- (3) 14の専修学校においては、多様な生徒等を受け入れ、職業教育を行い、実践力や即戦力を身につけて、社会へ送り出してきた実績、ノウハウを活かし、ニートのそれぞれの将来の希望や適性に合わせた少人数制の体験講座等を開講する。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

◇自立支援アドバイザー

- ・相談時間は、4人で280時間と計画していたが、実績は4人で350時間となり、計画を大幅に上回った。
- ・誘導:補助者のサポートなしで一人で出向けない人を多く抱えるサポートセンターもあり、専修学校への誘導に 限界がある、また、厚生労働省が実施するサポートステーション事業と重複する部分があるので、事業の棲み分けが非常にやっかいであるとの意見があった。

◇専修学校での体験講座

- ・14校が参加し、44回の体験講座を開講したが、70人の計画に対し、延べ20人と大きく下回った。その原因としては、精神障害者等のグレーゾンの層を多く扱っているNPO団体では、初チャレンジ、再チャレンジする人を多く抱えているため、体験講座の受講生は皆無であった。また3つのNPO団体等とも、専修学校の体験講座の受講を進めても「一人で行くのは抵抗がある人」が多く、「受講者は力の強い人に限られる」とのことであった。

このような中、集団での体験講座を最終日に計画したところ、1つのNPO団体から4人の受講者が参加したのは、大きな成果であり、来年度事業に反映させたいと考えている。

②事業により得られた成果

◇体験教習に参加した方々からは、仕事に対する視野が広まった、今後の自分の進路を考えるのに役に立った、いろんな仕事があることがわかった、自分がやっつけられるかどうかを考える機会となった、等々、体験を通じて、自分のためになったと言われる意見が多く、若者の仕事観を養うことに成果があると考えられる。
◇参加には至らなかったが、このような講座もあるのだということがわかって、もう少し先に利用して行こうと言う希望が持てたと言う声もあり、社会の入り口の部分で「体験」というものに対する期待も大きいと思われる。
◇各専修学校においては、職業訓練コースを1日3時間程度の短期間で体験できる内容で、講義時間と実習時間を短く区切り、展開の多いものにする等、就労の第一歩を達成させるための多様な自立支援プログラムを開発した。
◇NPO団体等と連携したニートに対する専修学校の支援プログラムは、ニートへの学び直しの機会を与え、新たな職業能力を見に付けさせることができたと思われる。

③今後の活用

各専門学校では、夏休み等を実施する高校生を対象とした体験講習、オープンキャンパスとは異なり、座学に加え実技、実習を多く体験するプログラムを開発し、ニートに再チャレンジの機会を提供したが、受講生からは一定の評価が得られたものと考えている。

今後、さらにニート状態を脱するための効果的な自立支援プログラム(ex. コミュニケーションの苦手意識への対応等)の開発が必要であると思われる

④次年度以降における課題・展開

連絡協議会委員、専修学校担当者及び自立支援アドバイザーの意見から、次の点について配慮し、ニートが参加しやすい講座の開講等ニートが再チャレンジできる機会を拡大する事業を展開する。

- ◇広報資料があれば、もっと多くの人に利用してもらえる可能性が広がる。
- ◇また資料は、わかりやすく、目を引くものが必要。
- ◇一人で専修学校の体験講座に出向けない人も多いため、「集団での体験講座」及び「1個所で多くの職業体験ができる場の設定(出前講座)」を考える。また、引率者の参加も検討する必要がある。
- ◇参加者が選択できる多様なメニュー、気軽に参加したくなるようなメニュー及び学習回数の増加を図る。
- ◇実習のバリエーションを増加する。
- ◇内容的に、専門的な講座にプラスして、仕事観、講師の生の声、人間的な関わりを感じることでできるやり取り等を意識した構成にしてはどうか。
- ◇多様な分野の専修学校の参画を図る。
- ◇自立支援アドバイザーの増員を図る必要がある。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

◇自立支援アドバイザーが聴取した体験講習の不参加理由は以下のとおりである。

- ・専門学校に行き難い。(学校に行き難い。場所が遠い。)
- ・ひとりで参加できない。(初めての場所、初めての人にとっても緊張する。)
- ・やりたいことが終わっていた。日程が合わない。
- ・何をするかわからないので不安。
- ・体験よりもアルバイトがしたい。(専門学校に行くことになったらお金がかかる。)
- ・講座にあまり興味が無い。仕事に結びつくとは思えない。

◇受講生19人のアンケート状況は以下のとおりである。

- ・「受講された体験講座は、あなたの期待や要望にこたえたものでしたか。」の設問に対して、(1)強く思う 10人 (2)思う 6人 (3)思わない 2人 (4)全く思わない 0人 (5)無回答 1人
 - ・「専修学校の授業は楽しかったですか。」に対して、(1)楽しかった 17人 (2)普通 1人 (3)楽しくなかった 0人 (4)無回答 1人
- 以上から専修学校の体験講座は、受講者の期待に応えたものであったと考えている。

②カリキュラムの開発

体験講座を実施した専修学校では、次のような教育プログラムを開発した。

◇「保育原理」「保育総論」等授業科目とは別に、「保育」のエッセンス的・紹介的なプログラムの原型を作ることができた。

◇講義時間と実習時間を短く区切り、展開の多いものとした。

◇実践の流れは、(1)現状と希望についてのヒヤリング、(2)医療・福祉系の職業の概要説明、(3)特に関心のある職業に関する体験、(4)職業適性検査の実施、(5)今後の活動についてのカウンセリング、というかたちで行った。

◇デザイン分野において、どのような仕事・職業があるのかという事のガイダンスを行った。卒業生で現在デザイン職に就いている人のコメントを使って職種を説明・紹介することで、デザイン職を「リアルなもの(漠然としたものでなく)」として実感してもらえよう工夫した。また、全くの初心者でもある程度達成感を得られるような、取り組みやすく成果の出やすい課題を工夫し、実技を行った。実技(オリジナルカードデザイン)を行うことで、手で創作表現することの楽しさは仕事・職業として活かすことができる、というより深い理解を得ることができた。

◇通常実施している体験講座と比較して、実技を多く取り入れた1時間程長いプログラムとした。

◇メッキの技術や合繊維の作成など、身の回りに化学・バイオが存在することを体験していただくための実験と、分析機器を使った水質環境分析や食品衛生実験などを楽しんでいただくことを通し、化学・バイオは難しくなく遠い存在であるとの意識をまず取り払って頂いた。

◇現社会状況下で話題となっている健康/体力づくりのプログラムをモデルに体験/仕組みを理解→健康管理に携わる職業の興味付けと理解を喚起する。

③実証講座

◇「体験講座に参加して良かったことを自由に書いてください。」の設問に対する回答の主なものは以下のとおりであった。

・実験を通じてもっと化学を身近に感じることができ、選択肢が増えました。色々な経歴の人が入学されているという話を聞き、今からでも遅くないのかなと思うことができた。(22歳。男性)

・実験などあまり難しくなく、身近な微生物が見れてよかった。

・一つの分野からいろんな仕事があることがわかった。(28歳。男性)

・まず化学というものの先入観があまり良いものではなかったが、実際の体験をしてみる事で、新たな楽しみを見つけることができた。(19歳。男性)

・熱心に説明してもらえてよかった。(21歳。男性)

・普段体験できないことをさせてもらえるのがとてもうれしいです。(29歳。男性)

・業界に対して、学校の事に対して、これからどういう方向に進むか、そういった話が聞けて大変参考になりました。今回参加させてもらえて良かったです。(34歳。男性)

・思ったことは書く、作る、話すなどをして行動にすることの大切さを改めて気づかせてくださったと思います。改めて自分のこれからの課題が見つかった気がいたします。これから仕事を見つけて行く時の励みになりました。(34歳。男性)

・違った世界を見れたこと。(18歳。女性)

・いろいろと情報を得られた。(29歳。女性)

④その他

体験講座を実施した専修学校が、事業実施にあたり工夫した点等は次のとおりである。

◇できる限り理解しやすいように指導を行ったので、美容に対して理解を深めていただいたと思う。実習に関しては、実際の授業や美容室で使用している器具を使用したため、リアルに体験していただけた。美容の楽しさや難しさを理解させることができた。

◇誰にでも親近感を持てる植物を材料とした実習内容に盛り込みながら楽しんでもらえるように工夫した。

◇実際のどのような参加者(属性、実技経験など)が来るのかを想像するのは難しかったが、どの場合でも対応できるような柔軟なプログラムになるよう工夫した。また、実技においては、初心者でもアイデア出しからフィニッシュワークまでを所要時間内に完成させられるような課題になるよう工夫した。

◇日常生活で起こりうる怪我や病気を想定した実習とし、参加者がより身近に感じられる内容とした。

◇日常(話題性・インパクト)→体験(楽しさ)/気づき→健康管理の専門職への興味と職業理解。

講義実施後も各現場での有効活用が可能なプログラム作成。

参加者自身が体験の中からスポーツの楽しさと健康意識を高められる授業内容